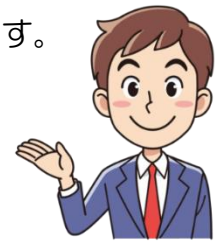
進路だより

都立永福学園　肢体不自由教育部門
令和５年１０月３１日　　発行
校長　　緒方　直彦
No.４　文責　　宮﨑　卓矢

日頃から本校の教育に御理解と御協力をいただき、ありがとうございます。
今回は夏季施設見学会と進路講演会の報告をします。



○　夏期施設見学に行ってきました

８月１７日（木）～２２日（火）に、児童・生徒、保護者、教員で、高等部卒業後に利用する進路先施設の見学をしました。

多数の申込みをありがとうございました。今回は施設の感染症対応が重なり人数調整をさせていただきましたが、小中高から総勢４０名が参加しました。

なかでも、親子での参加が多く、子どもたちにとってはロールモデルを得たり、自己の将来像を考える機会になったようです。保護者の方にとっても施設と学校の違い、多様な皆さんがそれぞれの過ごし方をする施設の様子や理念等に触れ、学校卒業までの学びやお子様の成長を改めて想像することとなったと思います。いただいたアンケートを一部紹介します。

～ 保護者の皆様から ～

イベント（おばけやしき）を見学、体験しました。利用者の方が笑顔で参加していて、通所生活を楽しんでいる様子がわかりました。　中学部

永福学園の卒業生が頑張っている姿を見ることができてよかったです。今度は本人も連れて見学したいです。　高等部

施設職員の方や施設の雰囲気は、やはり実際に参加しないとわからないと思いました。施設の理念や、他障害種の方の仕事も見学できてよかったです。　中学部

前にも見学したことはありましたが、本人を連れて行ってのは初めてでした。実際に通所するのは本人なので、本人の様子も見ることができてよかったです。　高等部

「洗濯ばさみを紙からはずす」という具体的な作業内容を見学でき、家でも手の動きを訓練していきたいと思いました。授業でももっと取り入れられるといいと思います。　中学部

初めての施設見学でしたが、卒業後の過ごし方について具体的なイメージができてよかったです。イベントやレクリエーションにも工夫がありました。　中学部

～ 児童・生徒から ～

去年と今年で２か所見学してみて「廊下やトイレが広くて動きやすそう」「こっちのほうが好きだな」など比較して見ることができました。パソコンでお仕事をしている人がいました。施設で経営しているパン屋さんのパンを買いました。おいしかったです。　中学部

「実際に自分の目で見ることで進路がより具体的になった」という感想を多く戴きました。「百聞は一見に如かず」ですね。児童・生徒自身が将来の進路を「自分のこと」と捉えることはとても大切です。機会を捉えて、少しずつ社会人となる準備を進めていきましょう。

見学したい施設があれば、施設へ直接相談いただいくことは可能です。施設の様子は、年を追うと変わっていきます。一度行ったことのある施設でも、再度見学し、最新の情報にアップデートしておくことが大切です。

進路講演会を実施しました

１０月４日（水）に、令和４年度卒業生保護者の提山美名子様、松浦紀子様、山根明美様の３名を講師に迎え、「自立と社会参加について～保護者の視点から　特別支援学校在学中に身につけておきたいこと～」というテーマで御講演いただきました。

講演会では、『在学中に〇〇を身につけたから⇒今こういう姿がある』『本校在学中に身につけておけば良かったこと』の２点について、具体的な例を挙げながらお話していただきました。

提山様

『自分でできることは自分で行い、難しいことは支援をお願いすることを目標に取り組んできた』⇒『現在は、初めての施設でも最初からお願いすることができており、結果的に本人もストレスのない生活を送れている』というお話がありました。

在学中に身につけておけば良かったことは、『趣味や好きなことの幅をもっと広げること』。卒業後は同じ生活が続き単調になりやすいため、余暇の充実や、節目ごとに目標をもつと良い、というアドバイスがありました。卒業生の提山さんは、現在映画館に行くことが大好きだそうです。

松浦様

『気持ちを伝える表現を身につけた』⇒『周りの人が自分のことを分かってくれて、生活を楽しめている』というお話がありました。

在学中に身につけておけば良かったことは、『好きなこと、楽しめることをたくさん見つけておくこと』『学校で学習したことで、地域で続けて学べる場所を調べておくこと』。

また、体調の変化により訪問 PT を利用することになった経験から、現在の子どもの障害や課題とは異なる情報でも、後々役立つことがあるため、在学中は様々な方と話をしておくと良い、というアドバイスもありました。

山根様

『訪問籍から通学籍に学籍変更し、少しずつ安定して登校できるようになった』⇒『現在は体力がつき、自分らしく集団生活を送れるようになった』というお話がありました。在学中の医療的ケアマニュアルの作成は細かな確認が多く大変な面もあるけれど、それらは通所施設にきちんと引き継がれ、スムーズにケアを進めることができるので安心してほしい、というお話もありました。

在学中に身につけておけば良かったことは、『はい－いいえ　意思表示方法の確立とあいさつ』。卒業後は本人の意見を最初に確認される場面が増え、本人にしかできない手続きも出てくるため、問われたことに答える力をつけることが大切だというアドバイスがありました。

参加者からの感想

まだまだ先のこと…と思っていますが、早め早めの情報収集が大切だと思いました。

グループディスカッションは距離が近く、話しやすかったです。

先輩のお話はとても分かりやすく感じました。共通した話題としてキャリアポイント一覧表の「④自己理解・自己決定」があります。自己の好みや選択方法、意思決定を段階的に示しています。お子様の成長に合わせて徐々に大人として関わり、“いつでも・どこでも・だれとでも”自分らしく過ごせるようにしていきましょう。

山根様から、訪問カレッジの紹介がありました。主催者の「重度障害者・生涯学習ネットワーク」は、特別支援学校などを卒業後、通所施設等の毎日の利用が難しい１８歳以上の方のご自宅等を学習支援員が訪問して、生涯学習に取り組む団体です。

第２回　訪問カレッジ
「学びの実り　アート＆ミュージックミュージアム」
～医療的ケアの必要な重度障害者の学びの成果を発表する文化祭～

日時　１１月３日（金・祝）１３：００～１６：００
　　１１月４日（土）　　１０：００～１５：３０
会場　かながわ労働プラザ
主催　重度障害者・生涯学習ネットワーク